



レオパレス21 ミャンマーオープン 第2ラウンド戦評

ミャンマー/ヤンゴン郊外のパンラインゴルフクラブで
レオパレス21ミャンマーオープン2017予選第2ラウンドがスタート。
上位65位タイまでの決勝ラウンド進出を目指し、今日も熱い戦いが繰り広げられた。

初日4アンダーでスタートした日本ゴルフツアー選手会長の宮里優作が、
ノーボギー7バーディの完璧なゴルフで一気にトータル11アンダーと首位に立った。
2位には南アフリカのキース・ホーン選手が3打差の8アンダーで続いている展開。
宮里選手はホールアウト後のインタビューで「まだまだ2日目の午前組での首位。
このあとの午後組も伸ばすでしょうから、まだまだ最終日のフロント9が終わるまでは、
同じように自分のゴルフで行きますよ。」と謙遜するものの、終わってみれば2日目
単独トーナメントリーダーでフィニッシュした。

宮里はここまで2日間連続ノーボギーでのプレーを振り返り、
「うーん、自分でも途中で、そういえば、、と思ったんですけど、
あまりそればかり気にしないで、ボギーを打ってもいいから
やるべきことに集中していこうと思って、ティショットからずっとやりました。」
と話し、明日からのゴルフについては、
「今週はパットがいい。特にタッチがいい。グリーンがっているのか、
イメージ通りにいけている。予想した優勝スコアの20アンダー目指していきたいですね。」
と明日からのさらなるチャージにも闘志を燃やしていた。

明日以降もどこまでスコアを伸ばしていくのか注目される。

今日までの予選ラウンド2日間を終えて、65位タイまでの選手が明日からの決勝ラウンドに進出。ムービングサタデーとなる明日はこのまま上位が逃げていくのか、下位からの巻き返しがあるのか？その試合展開から目が離せない。

またこの日、レオパレス21社長の深山英世社長にアジアツアーから感謝のギフトが贈られた。

アジアツアーを代表してチ・ラハン前会長と選手を代表してジープ・ミルカシン選手からそれぞれ記念品が贈られた。

